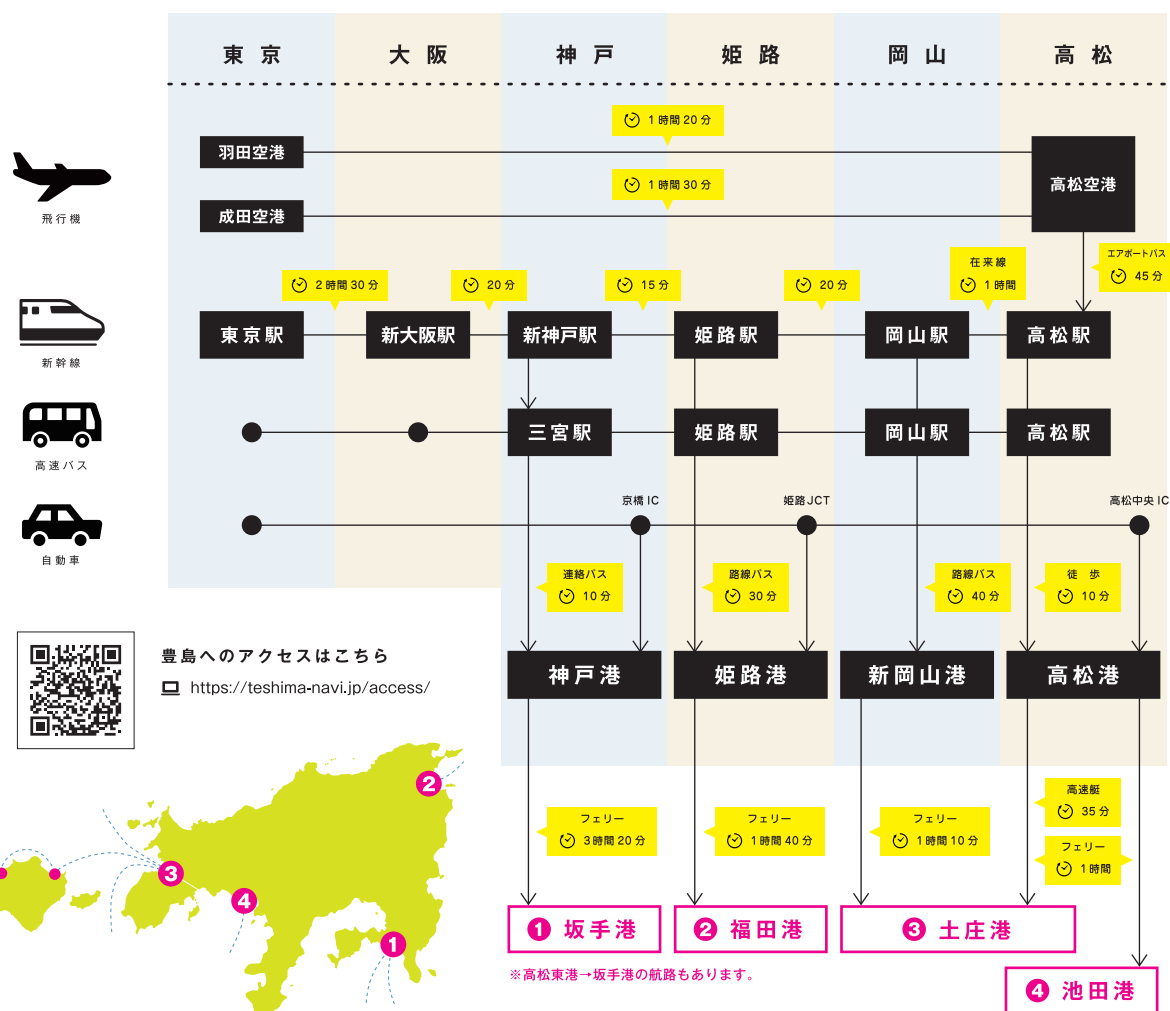


小豆島・豊島へのアクセス

小豆島は定期航路便がある港が4港、豊島には2港、全港合わせると9航路・毎日約120便が運行する最も便利な離島です。
しかし、行き方が多すぎて最初は迷ってしまいがち。下記の主な来島方法をぜひ参考にしてください！



小豆島・豊島 船旅の8か条

- ① 事前にルートと時刻表を確認
- ② 余裕を持って30分前には港に
- ③ 強風・濃霧時は、欠航確認を
- ④ 荒天時の高速艇は上級者向け
- ⑤ 帰りの船便は決めておくこと
- ⑥ 混雑時はデッキで風を感じよう
- ⑦ 船内うどんを召し上げ
- ⑧ 貴重な船旅を楽しむべし！

詳しいアクセスはこちら



小豆島へのアクセス



小豆島での移動方法

小豆島
豊島

集落の手帖

2025年2月発行

発行：小豆島移住・交流推進協議会、NPO法人トティエ
 制作：NPO法人トティエ
 田山直樹・田中久美子
 ロゴ：平野甲賀 表紙絵：藤戸創真
 デザイン：ヤーミンジャパン



NPO 法人トティエ（小豆島・豊島移住ナビ）

〒761-4425 香川県小豆郡小豆島町坂手甲 1834-15 さかてらす 2 階
 ☎ 0879-82-1199 ✉ cont@totie.org 🌐 <https://shimagurashi.jp>
 ☎ 9:00 ~ 17:00（年末年始および台風等の荒天時以外は、土日祝も休まず OPEN！）
 ※外出している場合もありますので、来所時はできるだけ事前にご連絡ください

小豆島・豊島

集落の手帖

多様な魅力と地域の暮らし





INDEX

- 01. 小豆島 - 暮らしのポイント
- 03. 草壁
- 04. 安田・木庄
- 05. 馬木
- 06. 苗羽
- 07. 坂手
- 08. 田浦半島
- 09. 福田・吉田・当浜
- 10. 橘・岩谷
- 11. 西村
- 12. 池田・蒲生
- 13. 中山
- 14. 三都半島
- 15. 土庄
- 16. 戸形
- 17. 淵崎 1
- 18. 淵崎 2
- 19. 大鐸
- 20. 四海
- 21. 北浦
- 22. 大部
- 23. 豊島 - 暮らしのポイント
- 25. 家浦・甲生・唐櫃
- 27. 住まい探しのポイント
- 29. よくあるご質問
- 30. 地域で暮らす 8 ケ条

しょうどしま

小豆島って？ ▶01

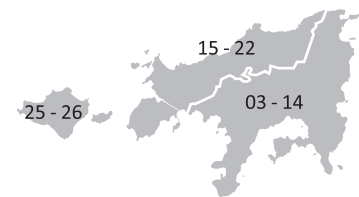
小豆島町・土庄町の2町からなる瀬戸内海で2番目に大きな離島です。

周辺には大小20以上の島が点在しています。

日本三大渓谷美の一つである寒霞渓、エンジェルロード、二十四の瞳映画村など観光名所も多く、年間100万人ほどの観光客が訪れます。

○人口：24,319人（2025年1月現在）
【土庄町(小豆島部分)：11,657人／小豆島町12,662人】
○面積：153.25km²

INDEX



○小豆郡Iターン者数：395人（2023年度）
○小豆郡Uターン者数：185人（2023年度）

至宇野・直島・高松

至岡山

至豊島・宇野

至高松

至高松

至高松

至神戸

至姫路

てしま

豊島って？ ▶23

小豆島の西方3.7kmに位置する離島です。

島の中央には檀山（340m）があり、古くから豊富な水を利用した稲作や農業が行われてきました。今でも米、いちご、みかん、レモンやオリーブなどの栽培が盛んです。唐櫃の棚田からは海を望む美しい景色が目の前いっぱいに広がります。

○人口：722人（2025年1月現在）
○面積：14.50km²

町役場

移動距離の目安

10分

歩行

自転車

自動車

小豆島

島への玄関口・土庄港がある土庄町は、“商業のまち”として発展してきました。町の中心地には大型商業施設もありつつ、少し車を走らせると海・山を感じられるバランスの良いエリアです。



東側の小豆島町は、“産業のまち”として、古くからの伝統を多く継承しています。国内のオリーブ発祥の地でもあり、他にも醤油・素麺・佃煮といった特産品も多く生み出しています。

小豆島は、「小」という文字が入っていることもあり、「小さい」と思って来島される方も多いですが、車でぐると周ると3時間ほどかかります。なかなか比較が難しいですが、京都の市街地がすっぽり入ってしまう、という少しイメージできるかもしれません。

島の中心には、瀬戸内海で一番高い星ヶ城山から連なる山々を有していることもあり、住宅街・集落の面積は広くはないですが、現在は約2.4万人(2025年1月時点)の方々が暮らしています。

集落や昔の“村”がつくられる際に大きく影響したのが、島特有の起伏に富んだ地形。それぞれの地域が独自に島外との交易を行い、様々な文化を吸収し育んでいったことが、現在に続く多様な文化や価値観に繋がっています。また、こうした環境の中で生まれた「人のつながり」をきっかけに、産業のタネと風土が組み合わさり、島の経済基盤となる産業へと発展していきました。離島という資源が限られた環境でありながらも、アイデアとチャレンジ精神に富んだ島人の気質は現代にも引き継がれています。

文化・風習

農村歌舞伎

三百年以上前から受け継がれ、今でも役者、化粧、衣装など全て島の人たちが担当して上演しています。



小豆島まつり

屋台や打上げ花火。お盆に帰省した人たちが夏休みの子供たち、島のみんなが楽しんでいる夏祭りです。



虫送り

火の灯った松明を手に、棚田の畦道を練り歩きその年の豊作を祈願します。小豆島では肥土山と中山で行われます。



太鼓祭り(秋祭り)

男衆が威勢のいい掛け声とともに、太鼓台を担いで地区を回ります。大人も子供もみんな総出の秋の風物詩です。



暮らしのポイント

島暮らし Movie
こちら Check!



point

1

離島とは思えない便利さ

完全離島でありながら、4つの港を有し、日に約120便もの船が行き来している日本でも随一利便性の良い離島です。本州(岡山・兵庫)にも四国(香川)にも行くことができます。また、コンビニエンスストアやスーパーマーケット、ホームセンター、薬局などが島内にあるので、必要な日用品は島外へ行かなくても揃います。



point

2

海まで5分、山まで5分

瀬戸内海最高峰の星ヶ城山をはじめ、島内の至る所に山がある小豆島。周囲を海に囲まれているため、場所によっては岡山や香川、淡路島まで見渡す事ができ、絶景を堪能できます。生活のすぐ近くに海と山の両方があるので、気が向いたときに気軽に自然を楽しむことができる島です。



point

3

多様な文化と風景

古くからの交通の要衝として、瀬戸内海でも有数の大きさを誇る島。古くから、海を通じて様々な文化や人が流入してきました。漁村に棚田、オリーブ畑や採石場、山にたたずむ寺院など、訪れる地域によって全く異なる景色の広がる小豆島。知れば知るほど、その奥深さに魅了されていきます。



おおつか いっほ
大塚 一歩 さん
(NPO法人トティエ)

私たちにはベストな環境

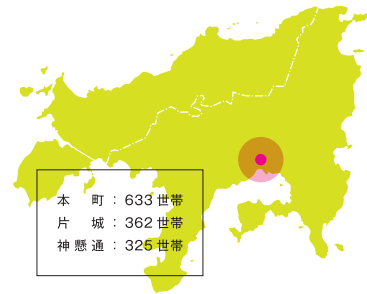
私は、2012年に東京から越してきました。“田舎暮らし”を求めて島に来たわけではなかったので、利便性と自然環境のバランスが良い小豆島の環境は、私たち家族にとってはベストです。今の住まいは、役場、銀行・郵便局、学校、スーパーマーケット・コンビニエンスストア等に歩いて行けるので、東京に住んでいたときより、便利だと感じるほど。島内全域にインターネット光回線が敷設されているので、現代の生活を送る上で重要な通信環境にストレスが無いのも大きいですね。

く さ か べ

草壁

(本町・片城・神懸通)

瀬戸内海の島々の中で最高峰816mの星ヶ城山がそびえたち、その西方にある景勝地「寒霞溪」の紅葉シーズンには、国内外から多くの観光客が訪れる。令和9年度には新しい小学校(町内3小学校が統合)が草壁本町に開校予定。



草壁地区

うちの集落こんなところ！

私が店を構える本町は、かつて商店が立ち並んでいたようで、紅葉の季節には港から寒霞溪までずらっと行列ができるほど賑わっていたとも聞きます。現在は、商店街はありませんが、近所に幼稚園・小学校、ドラッグストアがあり、コンパクトで良い地区だと思います。空き家は少ない印象ですが、新しくアパートも建っていますよ。北に寒霞溪、南に内海湾と、山と海両方の変化が感じられる、景色が綺麗なところが気に入っています。



渋谷 信人 さん

やすだ

きのしょう

安田・木庄

旧内海町役場（平成18年に池田町と合併し小豆島町となる）があった当地区は、スーパーマーケットなど店舗が集まる町の中心エリア。地域の中央には安田大川、西には木庄川が流れ、集落はその流域に開けた肥沃な平地一帯に広がる。



安田・木庄地区

うちの集落こんなところ！

便利で学校も近い安田は、子育て世帯にとって住みやすい地区だと思います。小さい子どもとも、一緒に歩いて買い物へ行けるのが良いですね。ただ、農作業をしたい方は、地区内で空いている畑や田んぼを見つけることは難しいかもしれません。安田の特色といえば祭りが熱いこと！「安田踊り」はたくさんの人で賑わいます。おじいちゃんおばあちゃんが子どもたちに踊りを教えて触れ合っている姿が、見ていて良いなと思いますね。



慶田 京子 さん



小豆島町役場



寒霞溪



小豆島中学校



植松児童公園(安田の馬場)



小豆島町立図書館(むとす館)



栗地ダム

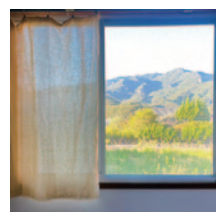


増原 さん・宮原 さん

寒霞溪のふもとで見守られているような気持ち

草壁本町に移住して1年半が経ちました。在宅仕事の合間に庭に出たり、畑で土をいじったりしていると、ご近所さんや町内会長さんが声をかけてくれます。季節ごとにいろんな表情を見せてくれる溪谷「寒霞溪」のふもとにあるこの場所で、地域のみなさんと山の神様に見守られている

ような気持ちになります。小売店や飲食店、役場や小中学校も近く、程よい活気があるところも気に入っています。2025年春からは、家の一部を改装して小さな宿を始める予定です。ぜひ、手触りのある暮らしを味わいにいらしてください。



うえむらシェアハウス

景勝地寒霞溪の麓の神懸通には、かつて「おへんろさん」で賑わう数軒のへんろ宿があった。そのうちの一軒、明治創業の「大倉旅館」をリノベーションし2017年にオープンしたのが、単身用就業者向け滞在施設「うえむらシェアハウス」。初めての島ぐらしの拠点として、これまで20名以上が滞在し、半数以上がここから縁を繋ぎ、島内各集落へと移り住んでいる。



本田 美咲 さん

地方移住初心者にとっても

安田は、スーパーマーケットや銀行、酒屋さんなど生活に必要なインフラや商業が集まっており、島の中でも利便性の良いエリアになるため、都市部から地方への移住を検討している方にとっても住みやすい地区だと思います。人通りの多いこの地区は、さまざまな人の目にとまりやすいため、私たちのように新規開業を検討する方に好条件。醤油や設備関係の会社も多いため、お店(小豆島惣菜店)には近くで働いている方がお弁当を買い求めにいらっやいます。初めての移住で不安もありましたが、地域の方々に支えていただきながら充実した島ライフを送っています。



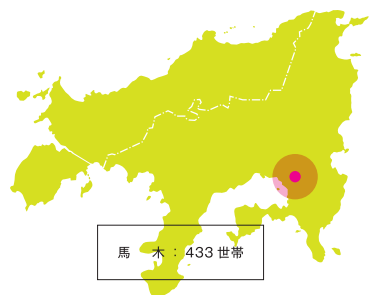
安田踊り

県無形民俗文化財。手踊りと扇の手の組み合わせからなる踊りで、江戸時代前期、当時京都で名のあった安田出身の歌舞伎役者が郷土へのおくりものとして作ったと伝えられている。その踊りは明治神宮に奉納されるなど、島内に留まらず広く知られる。現在は、戦死者の追善、新仏の供養の目的で、毎年8月14日に安田小学校の校庭で踊られている。

うまき

馬木

播州赤穂から移り住んだ塩浜師たちによって形成された馬木。内海湾周辺のエリアは“醤の郷”と呼ばれ散策を楽しむことができる。醤油の元となる“もろみ”の色が染み出して真っ黒に染まった蔵からは醤油の香りが漂ってくる。



馬木：433世帯



馬木地区

うちの集落こんなところ！

昔は干潟が広がり塩業も盛んでした。その塩を使って、上質な醤油産業が始まり、当時は醤油蔵もたくさんありました。その後、醤油を使った佃煮製造が興り現在まで続いています。「馬木の散策路」には私が手入れする花畑があり、菜の花やひまわり、コスモスが咲き誇る季節には、メディアを含め多くの方が見に来られます。内海八幡宮の山頂からの眺望もとても綺麗ですよ。長く住んでいますが、人も優しく、静かで良いところです。



いしい いわお
石井 岩男 さん

のうま

苗羽

醤油蔵や佃煮工場が立ち並ぶエリア。七夕に開催される弁天祭では打上花火があがり、地区内外からの見物客で賑わう。大通りまで出ると、警察署や小学校、飲食店などがあり、スーパーマーケットまでの道のりも平坦で徒歩圏内。



苗羽：464世帯



碁石山

うちの集落こんなところ！

苗羽は、小豆島の醤油文化の中心地の一つで、地元に誇りを持って暮らしている人が多いです。家と家の間隔が狭すぎず、傾斜地も少なく、買い物も徒歩圏内で暮らしやすいです。保育所、幼稚園、小学校があるので、子供が比較的多いのも特徴ですね。地区ごとに新年会や清掃行事など住民が集まる機会があり、秋祭りも活発に行われているので、地元に溶け込みたいと思う人であれば島らしさを満喫できると思います。



おおば やし じくう
大林 慈空 さん



小豆島まつり（小豆島町）



内海八幡神社



移住体験施設・黒島邸



苗羽漁港



醤油蔵



常光寺

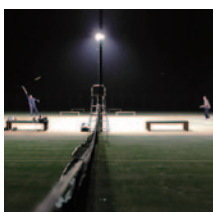


にしかわ ゆうき
西川 友樹 さん

地域の行事も面白い！

馬木は祭り好きな人が多いという印象で、年中なかから行事がある気がします。ヤッシッシ（伝統芸能）やソフトボール大会も、“未経験で良いから”と地域の方が誘ってくれるので、なるべく参加して交流するようにしています。他には、猪対策や溝掃除などを手伝ったり。そういう機会に、

積極的に出ていかないと、なかなか交友関係が広がらないのかなと思います。休日は島内のテニスクラブに参加しています。島はスポーツ好きな人が多くて、スポーツクラブはいくつかあるようです。これからは SUP をもっとやりたいですね。海の上で風を感じられるのが面白い！



内海八幡神社

応神天皇が小豆島にご遊幸された際、宮山の山頂に行在所を造りしばらく滞在された。郷を去られる際に木の枝を切り、紙垂を掛けた物を村人に託しこれを自分と思い記るよう言い残されたという。その後京都石清水八幡宮より応神天皇の御分霊を勧請し、創建されたと伝えられている。秋祭りの日には、内海地区各集落の太鼓台が奉納されるため、境内は多くの人で賑わう。



うら さや
浦 彩弥 さん
(小豆島町移住コンシェルジュ)

今ではすっかり苗羽地区のファンです

東京から小豆島に移住しました。苗羽地区は交通の便が良く、近くには釣りが楽しめるような漁港もあるため、暮らしやすさと島らしい環境が揃っています。地元の人たちは、はじめはシャイな印象でしたが、秋祭りなどの行事に参加する中で、おしゃべりでお酒が大好きな、面倒見の良い人たちがばかりであることに気がつきました。移住した人に対して伝統を押し付けるわけではなく、その文化に愛着が持てるよう、地域のことを丁寧に説明してくれるので、とても親しみやすく感じています。地元の人たちとたくさん関わりたい方におすすめのエリアです！



佃煮

戦後、悪質な醤油が横行したのを案じた醤油醸造者たちの手によって、島の上質な醤油を使った佃煮製造が興った。現(株)タケサンの創設者である武部吉次が、当時主食の一つであったさつま芋のつるを使った佃煮づくりに着目したのが始まりとされている。今では昆布やのり、貝類など品目が多様化し、小豆島の特産品として広く親しまれる。

坂手

島の南東にある地区で、神戸・高松とを結ぶフェリーが就航する坂手港がある。昔から関西圏との交流が多く、話し方も住民の雰囲気もアットホームで親しみやすい気質の方が多い。そういった特徴も相まって、移住希望者に人気がある地区。



坂手：234世帯



坂手地区

うちの集落こんなところ！

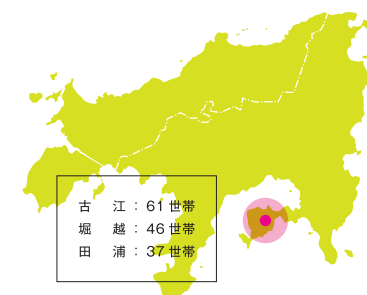
私が若い頃は、まだ旅客船の時代で深夜や早朝に着く便もあったりして、とても賑わってましたね。昭和も終わりに近づいて経済が低迷して、最終的には定期便が止まってしまった時期もあったんやけど、瀬戸内国際芸術祭を契機に航路が復活して、2013年に地区内に作品が置かれ始めてからいろんな人に来ていただいて、活気が少しずつ戻ってきました。移住の方も増えてきて、地区行事や祭りに参加してくれるので嬉しいです。



くるとま ひろし
久留島 博さん

田浦半島 (古江・堀越・田浦)

小豆島を一躍有名にした壺井栄の小説「二十四の瞳」にゆかりの深い場所であり、映画村には多くの観光客が訪れる。以前は別荘地として人気があり、町の中心部からは外れているが、山も海もあり、移住者が好む立地条件が揃う場所である。



古江：61世帯
堀越：46世帯
田浦：37世帯



堀越集落

うちの集落こんなところ！

小豆島を一周して、気に入ったのが島の東側の内海エリア。縁あって数年前、田浦に自宅兼ゲストハウスを構えました。晴れた日には内海湾に面したテラスから美しい夕日が眺められます。一方、隣の堀越は同じ田浦半島にありながら朝日がきれい、と位置する方角によって景色が全く違うのもこの地域の魅力。小豆島にお越しの際はぜひ田浦半島に、そして私たちのセンゲストハウスにご滞在いただくと嬉しいです！



のりこ
アイエナノン 範子さん



瀬戸海水浴場(瀬戸の浜)



さかてらす



移住体験施設・黒田邸



田浦分校



センゲストハウスのビアハウス(春夏営業限定)



二十四の瞳映画村



なかつた まさや
中田 雅也さん

いろんな人と繋がって、島を盛り上げていきたい

坂手地区で原料から醸造まで小豆島産にこだわったビール造りをしています。小豆島は穏やかでいい人が多いですが、中でも僕が住んでる地区の皆さんは、ほんとめっちゃめっちゃええ人ですね。地域行事にも積極的に参加するようにしてたんでその作業の合間にビールのこととかを話させてもらったりして。地元の人理解やサポートが無ければ今は無いと思っていますし、いろいろしていただいた恩返しのためにも良いビールを作らなきゃと思っています。子育ての環境としても、めちゃくちゃいいですよ！子どもたちも楽しそうだし。近所の人達が信頼できるのはいいですね。



移住を具体的にイメージ“お試し島ぐらし”施設

坂手地区には、町が運営する「移住体験施設」がいくつかあり、滞在中の自炊やご近所の交流などリアルな滞在をすることで、島ぐらしがより具体的にイメージできる。坂手以外にも、馬木地区(P5)や土庄地区(P15)には長期滞在向けの移住体験施設があるので、お問い合わせ、ご相談は裏表紙に掲載のNPO法人トリエまで。



かとう ゆか
加藤 由佳さん

憧れの環境で日常を過ごす幸せ

堀越は、山に囲まれ、瀬戸内海に面した小さな集落です。町の中心部から少し離れているため、人や車通りが少なく、静かでのんびりした雰囲気です。聞こえてくるのは鳥の声。穏やかな海を行き交う船。朝日は海面にきらきら反射し、真っ暗な夜空には星が輝きます。憧れの環境に身を置いて、当たり前で過ごす日々がとても幸せだと感じます。自然が身近なこの地域、「たくさんできたから」とご近所さんから野菜をもらったり、「猪が罠にかかったから見に来るか」と声がかかったり。都会とは違った日常が、ここにはあります。ぜひ一度、お越しください！



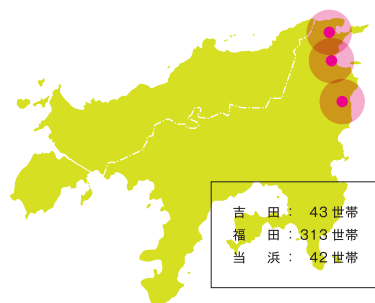
移住者によって引き継がれる塩の歴史

島には醤油作りの礎(いしずえ)となった塩の歴史がある。海に囲まれた小豆島では昔から良質な塩の産地として古代より有名であったが、時代の流れにより江戸時代後期に一度は途絶えてしまう。現在は塩屋・波花堂さんが製塩業を営み、田浦半島のきれいな海水を利用して、昔ながらの製法で塩づくりをしている。

ふくだ よしだ あてはま

福田・吉田・当浜

大坂城の石垣に使われた石を切り出した丁場跡が数多くあり、迫力ある岩肌の山がそびえる景色が圧巻。小豆島と姫路を結ぶ航路、福田港があり、関西への玄関口のひとつ。



福田港

うちの集落こんなところ！

ここは島の中でも唯一、江戸期の丁場跡など石にまつわる国指定の文化財がふんだんにある所。私も石に魅せられ20数年前にやって来ました。そして子育てにおすすめ。学校が終わるとよちよち歩きの子から小学生や中学生までいろんな年頃の子も達が八幡さんに集まってみんなで遊び始めます。そこへお年寄りがやって来て見守ってくれる、自然と縦の繋がりがこの光景が子どもの成長にとっですごく恵まれた環境だなと感じています。



ふじた つとむ
藤田 精さん



吉田温泉



吉田八幡神社



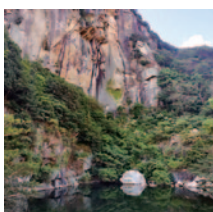
吉田ダム



かわしゅくだ よしみ
川宿田 好見さん

小豆島の日本遺産、石の文化のご紹介

港では石船が行き交い、山では石工が石を切り出し、鍛冶の音が響く。これが小豆島の北東に位置する福田地区のかつての風景でした。古くは大坂城築城から、伏見城、皇居めがね橋(正門石橋)、伏見桃山御陵などの建造という歴史的出来事のなかに「福田の石」の記録が残っています。また福田地区にある森ヶ滝丁場跡や山の神まつりなどは日本遺産「せとうち石の島」の構成文化財になっています。さまざまな石の技術の痕跡を発見しながらのお散歩もおおすすめです。



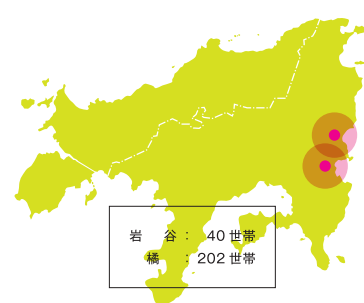
吉田の岩場と瀬戸内JAM

吉田キャンプ場の近くには「吉田の岩場」と呼ばれるクライミングエリアがあり、瀬戸内海を一望できる景色が素晴らしいことから、フリークライミング黎明期より親しまれている。吉田の岩場を中心に、クライミングやボルダリングなどを体験できるイベント『瀬戸内JAM』も定期開催され、小豆島のアウトドアの新たな魅力を発見できる注目が集まる。

たちばな いわがたに

橘・岩谷

島の東海岸に位置し、播磨灘の大海原が広がる。大坂城築城石切丁場跡が数多く点在し、石の歴史を感じることの出来る地区である。エンジェルロードと同じく潮の満ち引きで出現する「希望の道」も有名であり、その海の透明度は抜群。



希望の道

うちの集落こんなところ！

「岩谷は真東向きの冬は暖かく夏は涼しい、島で1番の集落」とお義父さんがよく言ってます。私は日の出スポットとしてゲストハウスのお客さまにお勧めしています。山が西に位置しているため夏は午後4時頃になるとビーチが日陰になり、日焼けを気にせず海水浴が楽しめます。あと岩谷荒神さんに鎮座する狛犬は名工・和泉屋安兵衛作で、一見の価値あり。橘トンネルが出来たおかげでスーパーまで車で約10分と意外と便利なんです。



おかもと ちさと
岡本 知里さん



大天狗岩



南風台



白崎海岸



かわもと るみ子
川本 るみ子さん

交流を楽しめるシェアハウス・カゴムニッテ

「川崎屋甚蔵」という屋号で親しまれていた実家を、女性専用シェアハウスとして再生しました。都会では味わえない、地域との交流を楽しんでいただけるような場所になればと思い、管理人である娘が、入居後のご近所挨拶や、地域行事への参加もサポートしています。近所の方々もとても親切で、畑で採れた新鮮な野菜のお裾分けをしてくださることも。また、海辺で朝日を浴びながらヨガを楽しむなど、岩谷の豊かな自然を満喫できるのも魅力の一つです。カゴムニッテで暮らしていただく中で、生まれ故郷・岩谷の魅力をを知っていただけたら嬉しいです。



小豆島の石文化

岩谷地区には、江戸時代に大坂城再建のための石材を切り出した「大坂城石垣石丁場跡(小豆島丁場跡)」が残っている。中でも「天狗岩丁場」にある高さ17メートル、重さ1,700トンの巨石「大天狗岩」は圧巻。国指定史跡であるこの場所は、遊歩道やトイレが整備され、今でも石を割るための矢穴や刻印など、当時の石工が活躍した痕跡を確認することができる。

にしむら

西村

オリーブと内海湾の美しい光景が広がる西村地区は、観光スポットや飲食店が数多くあり、1年を通して観光客で賑わう。眺望とほどよい利便性を兼ね備えた当地区は、島民にも人気のエリアとなっている。

＼紹介動画／



西村：536世帯



小豆島オリーブ公園

うちの集落こんなところ！

私は地元出身で、草壁地区でオリーブ染め工房・木の花を運営していましたが、カフェ併設の新店舗開店を機にこちらに越してきました。“島の色を伝える”オリーブ染め作家としてベストな地区ですし、毎日朝日を浴びながらの散歩は、とても元気をもらえます。西村の人は、小豆島の温暖なイメージそのまんまというか、穏やかな方が多いですね。良きご縁がありましたら、ぜひ西村地区へどうぞ！お店にも遊びにきてくださいね！



たかぎ かなこ
高木 加奈子 さん



オリーブビーチ



オリーブナビ小豆島
(就職支援窓口 島ワークプロジェクト)



オリーブ公園隣接町営公園



うらい りん
鵜飼 凜さん

人生を変えた西村の景色

まるで外国のような美しい西村の景色は、移住を決めたきっかけの1つになりました。今はご縁あって、山側にあるオランダカフェ Cupid&Cotton でお菓子の製造・販売をしています。カフェで働きながら眺める昼下がりの内海湾や、仕込みが終わったあとに見る淡い夕暮れや満天

の星空は、どれもハツとするような美しさがあり、贅沢な場所で生活しているなぁと毎日思います。お店には、移住を検討される方もたくさん立ち寄られるので、移住トークに花を咲かせたりする時間も大好きです。西村にいらっしやった際は、ぜひ当店にも遊びに来てくださいね！



国内オリーブ発祥の地

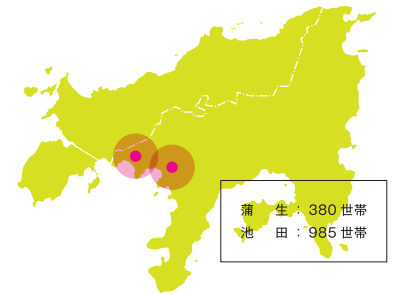
オリーブやオリーブオイルが日本の食生活でポピュラーな存在になってから久しいが、西村地区は国内でのオリーブの栽培が始まった特別な場所。1908年の試験栽培から今に至るまで、大切な植物としてこの地に根付き、島内の文化としても大きく根を張っている。“ホウキ飛び”で有名になったオリーブ公園やオリーブ園などの施設もあり、小豆島のイメージにピッタリの場所。

いけだ

かもう

池田・蒲生

高松航路、池田港があり便数も多く通勤・通学の利用客でいつも賑わっている。小豆島中央病院や産直市場、小豆島中央高校があり、隣町の土庄町までも近く、島の中でも利便性の高い場所である。



蒲生：380世帯
池田：985世帯



池田地区

うちの集落こんなところ！

ここは南向きの斜面を活かして昔から農業が盛んだったということもあって日当たり抜群。病院、幼稚園、学校とほぼ揃っているのでファミリー層には生活しやすい場所だと思います。地区の行事では特に秋の太鼓祭りが熱心で、みんな毎年楽しみにしています。祭りの準備から参加すると、誰がどんな人かが分かりやすいし、地域に入りやすくなると思うので、地区のみんなと一緒に祭りで盛り上がり、ここでの暮らしを楽しんでください。



いのうえ ただひろ
井上 匡都 さん



小豆ふれあい産直市場



小豆島中央病院



小豆島中央高等学校



かしきわ みゆき
柿崎 未佑紀 さん

自然が近く、子育てするにも便利なエリア

島に住み始めて8年になります。池田の浜条地区に住んでいますが、島のどこにもアクセスがいい場所です。病院や学校、幼稚園などへも通いやすく、すぐそばには海や公園があるため、子どもがいる我が家にはありがたい環境です。私たち夫婦は浜条で「タコのまくら」というカフェを営んでいます。カフェの目の前にも海があり、島の西側なので夕日が綺麗です。2023年には一棟貸しの民泊と、我が家の二世帯住宅の一部の部屋を貸す民泊をはじめました。地元の雰囲気を感じられるので、移住を検討されている方にも利用してもらえると嬉しいです！

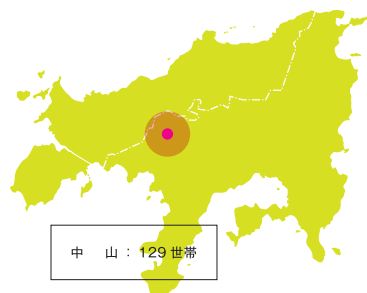


池田馬場の棧敷

長さ80m、高さ18mの階段状になっている野面積みの棧敷。最上段まで上がると、驚くほどの高さがある。建造年代は不明。八幡宮内の馬場にあった舞台上で上演される歌舞伎を見るためにあったと伝えられており、江戸時代の奉納絵額には太鼓台や奉納相撲など当時の様子が描かれている。昔から祭礼等で人々が集う場所であり、現在は秋祭りに町内各地区の太鼓のかき比べ、オオネリなどを見物する場所である。

な か や ま
中山

「日本の棚田百選」にも選ばれた千枚田の風景がとても美しく、古き良き日本の原風景が今も残る場所であり、昔ながらの伝統行事や風習も数多く受け継がれている。湯船山の豊かな湧き水が田んぼを潤し、美しい山々、里山風景が広がる。



中 山：129 世帯



千枚田

うちの集落こんなところ！

生まれてからずっとここに住んでいるので何が自慢かわからないけど、中山には名水・棚田・里山と3つの100選があり、海辺とはひと味違う伝統行事や風習があります。最近では地区の若い人たちが主になって新しいことに挑戦する機会もあり、瀬戸芸でも盛り上がりました。とにかく他所に比べて行事の多い地区だから、みんなで寄り合ってワイワイと何かをするのは日常茶飯事。地元の人とも顔馴染みになる機会はたくさんありますよ。



いくち へいじ
井口 平治 さん



虫送り



ホタルの里



中山農村歌舞伎舞台



うえすぎ あらた
上杉 新 さん

この自然の中に在る店だからこそ伝えられること

棚田や農村歌舞伎をはじめ、ここには地元のみなさんが大切にしてきたものがたくさん残っています。埼玉のベッドタウンからやってきた私と、地元の方とでは育ってきた環境が全く違うので考え方が違うこともたまにありますが、ここに住む人たちの地域を愛する姿勢や誇りにはとても学びがあり、尊敬しています。季節によって変わる鳥や虫の鳴き声、木々の色…この山の中で感じる自然は本当に美しく、毎日見ても飽きません。この素晴らしい環境の中に在る私たちの店を通して、生きる上での豊かさや島の魅力を再発見してもらえれば良いと思います。



農村歌舞伎

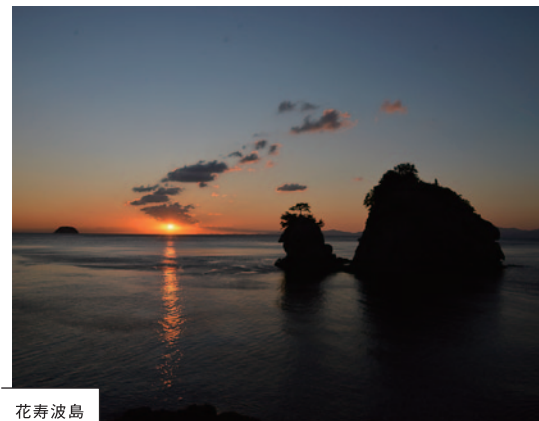
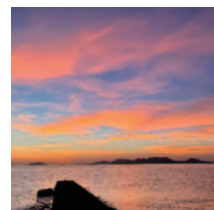
江戸時代中期頃に始まったと伝えられる五穀豊穡のための奉納歌舞伎。役者から裏方まで、すべて地元の人たちによって上演され、上演日には家々が「わりご弁当」を手に栈敷席に集まり、大人たちは酒を酌み交わしながら観るのが習わし。子どもからお年寄りまで、演者も観客も一緒になって楽しむ、今も現存する中山地区ならではの地域行事である。



つのだ ひきのり
角田 尚記 さん

ロケーションと住み心地が◎！

吉野地区は、穏やかな吉野浜となだらかな壇山に囲まれた静かな地区です。冬には強い西風が吹きつける時期もありますが、普段は住んでいる人たちも含めて、ゆるやかな雰囲気が心地良いですね。私たちは7年ほど前から住み始めて今は4人家族になりましたが、ここ数年で子連れの家族が少しずつ増えてきて、小さなクリスマス会をしたり、夏は砂浜で花火をしたりと、ゆるく集まって日々楽しんでいます。吉野浜から見る絶景の夕陽は飽きることなく、島暮らしの贅沢さを味わっています。



花寿波島

うちの集落こんなところ！

蒲野地区は、昔、様々な野菜や電照菊が栽培されていた農村地帯でした。人も優しく穏やかな土地柄ですが、自分の生活範囲のことは自分でやって、自治会活動には参加するなど、周囲の人と協力して地域を維持していく気持ちは必要です。そうした機会が住民同士のふれあいの場にもなっていると思います。喧騒はなく開放感があり生活するには良い所ですが、仕事はあまりないので、リモートワークに最適な場所ではないでしょうか。



よねくら まこと
米村 誠 さん



小豆島ふるさと村



うみおかふらっと



神浦湾

海の神事「オシコミ」
海から太鼓がやってくる

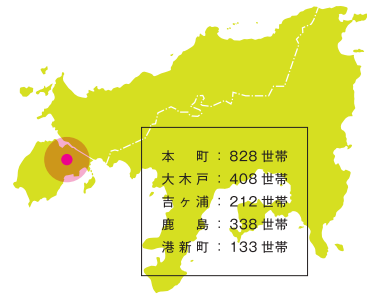
島内各地で行われる秋祭りのひとつ、亀山八幡宮例大祭で披露される「オシコミ」。陸路での太鼓台奉納が難しかった時代に、船で太鼓台を運んだことに由来する。奉納する太鼓台をのせた船を漕いで浜に担ぎ上げ、宮入り。これを合図に祭りが始まる。かつては三都半島の3地区で行われていたが、現在は神浦地区のみで引き継がれる町指定無形民俗文化財である。

とのしょう

土庄

ほんまち おおきど よしがうら かしま みなとしんまち
(本町・大木戸・吉ヶ浦・鹿島・港新町)

土淵海峡の西側に位置している。一日約90便の船が発着する「土庄港」や大型スーパーマーケットなどがあり、生活する上で非常に便利。観光名所でもある「エンジェルロード」や「迷路のまち」などもあり、小豆島の玄関口とも言える地区である。



西光寺と迷路のまち

うちの集落こんなところ！

鹿島地区に住み始めて約8年。鹿島は前島の南側に位置している事もあり、温暖で日当たりもよく、スーパーや病院も近くに揃っているの、とても住みやすい場所です。家族連れも多い印象で、神社前の公園で子どもが遊んでいるのもよく見かけます。生活の中で子どもの声が聞こえるのは良いなあと思います。海水浴場も目の前にあるので、夏に浜辺で流星群を眺めた事も！便利さと自然を楽しむ島暮らしを両立できるのが鹿島の良さです。



にしわき みつえ
西脇 美津江 さん



土庄港



ハローワーク土庄



土庄町島暮らし体験の家



まかい みさき
堺井 美咲 さん

四季を楽しむ自然豊かな島暮らし

本町に住み始めて4年目。なによりも住環境の利便性の高さに驚いています。スーパーマーケットや郵便局、病院、ホームセンター等がすべて車で5分以内に行ける立地。こんなに便利な場所でありながら、自然が豊かであるところも魅力です。趣味が釣りなのですが、仕事終わりに車で

様々な釣り場にさくつと行くことができます。風向きや潮の流れに合わせて釣り場が選べ放題です。他にも、春の新緑、夏の海、秋の紅葉など自然もすぐそばにあります。生活のなかで当たり前のように、季節の流れを感じられるところが気に入っています。



鹿島明神社

中世の『備前国神名帳応永本』に「從五位上賀島玉比咩明神」と記載があり、福田の玉比咩明神（現玉姫宮）と並んで、島内で最も由緒ある神社。棟札(寺社の建築修築の記録として棟木などに取り付けられた札)には享保年間のものがあり、古くから信仰を集めていた事が伺える。現在では「からかい上手の高木さん」の聖地としても有名で、境内には訪れたファンによる絵馬がある。

とがた

戸形

やなぎ せんげ こせ
(柳・千軒・小瀬)

小豆島の最西端に位置する。対岸には小豊島、豊島、男木島を望み、瀬戸内海らしい多島美の景観を味わえる地区。年間を通して美しい夕日を楽しむことも出来る。戸形崎で毎年掲揚される鯉のぼりは、小豆島の春の風物詩ともなっている。



旧戸形小学校

うちの集落こんなところ！

元々小豆島の別の地区に住んでいましたが、戸形の鯉のぼりや旧小学校の景色に魅了され、引っ越ししました。戸形地区はどのルートを通っても必ず海沿いを走ります。時間や季節によって日々違う表情を見せる海は、何度見ても飽きることがないくらい美しいです。その分、冬に吹く風も強いですが！また、小瀬のおっちゃんとはとにかく元気！いつもワイワイ楽しそうなんです。鯉のぼりやしめ縄作りなど、子どもと一緒に地域の文化を教えてもらっています。



まきうら ともこ
牧浦 知子 さん



重岩



224ワイナリー



戸形崎の鯉のぼり



つちや みさき
土屋 実季 さん

旅先のご縁から始まった新生活

小豆島に移住をして3年目を迎えています。出身は札幌、社会人時代を名古屋で過ごし、ソムリエとして勤めていました。お客様にワインを提供するうちにワイン造りに興味が沸き、旅先の出会いで葡萄の収穫を1ヶ月お手伝いしていた時に仮住まいを始めたのが小瀬地区でした。穏やかな瀬戸内海に沈む夕陽に心癒され、移住者を暖かく迎え入れて下さる地域住民の皆様、そして先輩移住者様も身近にいる事から、安心して小豆島暮らしを始めることができました。思ったよりも冬は冷え込みますが、その分満天の星空が楽しめますよ。



前島おかげさまハイキング

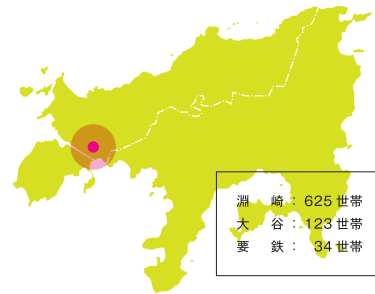
毎年4月の第1日曜日に前島（土淵海峡を挟んだ西側部分。小豆島を牛で例えるなら頭の部分）にて行われるイベント。参加費は無料で、参加する人は各所で様々なお接待を受けながら、それぞれのペースで前島を歩いて一周する。小豆島に今も受け継がれているお遍路の文化を肌で感じながら、前島の美しい景色、そして地域の人との交流を楽しむことができる。

ふちざき

淵崎①

ふちざき おおたに ようてつ
(淵崎・大谷・要鉄)

土淵海峡の東側に位置する。背後に皇踏山をいだし、四季折々で移り変わる美しい山容を楽しめる。スーパーマーケットやドラッグストアなどの生活に欠かせない商業施設が集まっており、とても暮らしやすいエリアである。



淵崎: 625世帯
大谷: 123世帯
要鉄: 34世帯



淵崎地区

うちの集落こんなところ！

淵崎出身で、高松で就職して働いたのち、Uターンで戻ってきました。この地区の良さと言えば、何といっても住みやすさ。買い物や島外に出るのに便利ですし、地区の世帯数は多いですが、隣近所とも良好な関係で、静かで暮らしやすいといえます。島の南側に面しているので気候も温暖。また、淵崎は皇踏山のふもとにあるので、幼い頃はよく山で遊んでいた事を覚えています。気軽に楽しめる自然がすぐ近くにあるのも魅力ですね。



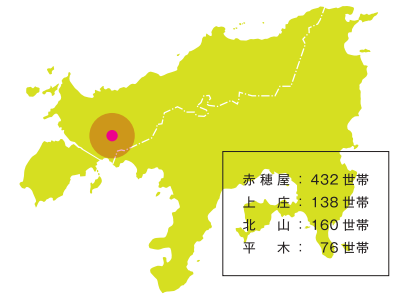
ひらばやし きよたか
平林 清孝 さん

ふちざき

淵崎②

あこや かみしょう きたやま ひらき
(赤穂屋・上庄・北山・平木)

小豆島で最も長い伝法川に沿って広がる地区。富丘八幡神社を有し、秋の太鼓祭りで神社の馬場に太鼓台が集結する様は圧巻。小中学校をはじめ、バスポート発行も可能な小豆県民センターや、小豆運転免許更新センターもある便利な地区。



赤穂屋: 432世帯
上庄: 138世帯
北山: 160世帯
平木: 76世帯



富丘八幡神社

うちの集落こんなところ！

富丘古墳群や宝生院のシンパクがあることから分かるように、この地区には古くから人が住んでいたようです。赤穂屋という地名も江戸時代に赤穂から製塩の職人が移住してきたからついた名前と言われていて、古くから様々な地域との交流がある場所でした。現在では小中学校と商業施設が集まっている事もあり、その利便性の良さから島内の他地区から移ってくる方も増えています。移住者にとっても入りやすい場所なのではないでしょうか。



たかはし じゅめい
高橋 寿明 さん



こどもさくら公園



土庄町役場



土庄町立中央図書館



土庄小学校



宝生院のシンパク



小豆島まつり (土庄町)



せいけ まゆみ
清家 真弓 さん

程よく活発で暮らしやすい淵崎地区

港も近く、スーパーマーケットやドラッグストア、コンビニ、ファミレスもありながら、海や山にも近く、はじめての島ぐらしにちょうどいい地区だと思います。私たちは、移住して間もなく、淵崎地区(要鉄)にてご縁をいただいて台湾カフェをオープンし、仕事と生活の両方でとてもお

世話になっています。普段は付かず離れずの心地よい距離感がありつつ、秋祭りや地域の運動会などでは横の繋がりがしっかりしており、そんな程よい活発さが暮らしやすいと感じています。離島生活を楽しみつつ、便利さも捨てがたいという方におすすめの地区です。



浄源坊の盆踊り

小豆島霊場 57 番札所の浄源坊では毎年8月23日に盆踊りを行うが、その際に踊られる「ちょーほ・ほい」という踊りは、平安雅楽の流れを組む大変珍しい踊りである。言い伝えによれば、立ち寄った京の公家が舞った踊りが起源のようで、瀬戸内海を通じた関西との繋がりが伺える。〔「意外に知らない島の話 小豆島講座」(株)マルシマ印刷発行、三木佑二郎著より要約〕



たやま なおき
田山 直樹 さん

ゆったり流れる島時間

淵崎地区にて書店 TUG BOOKS を営んでいます。商業施設も多く、島の中では街の雰囲気が強い淵崎ですが、店のまわりはゆったりとした時間が流れています。隣の神社からは鳥の声が聞こえてきますし、近くの海岸は犬の散歩や潮干狩り、星空観察など、様々な人が思い思いの時間を過ごすために訪れています。店の前をタヌキがぶらぶら歩いていたたり、裏庭でカモが羽を休めていたり。屋根で日向ぼっこする猫も何度か見ました。生き物にとっても憩いの場所なのでしょう。当店を訪れるお客さんにもものんびりした空気を味わってもらえると嬉しいです。



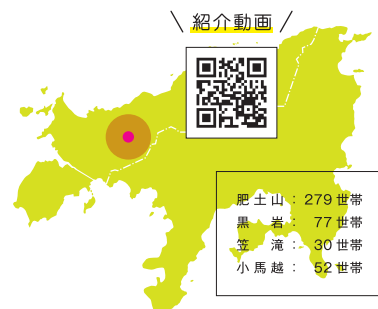
宝生院のシンパク

応神天皇がお手植えされたという伝承があり、樹齢は推定1600年以上。国の特別天然記念物に指定されており、シンパクとしては国内唯一の特別天然記念物である。樹勢も旺盛で、三方に分かれて幹を広げる姿はまさに壮観の一言。乾燥少雨の小豆島でこうした巨木が現在まで残っているのは稀有な事であり、地域住民や歴代の住職によって大切に守られてきた事が伺える。

おおぬで 大鐸

ひとやま くろいわ かさがたき こうまごえ
(肥土山・黒岩・笠滝・小馬越)

小豆島の中心部に位置し、古くから農業が盛んだった地区。江戸時代より続く農村歌舞伎や豊作を祈る虫送りなどの伝統的な行事が今も継承されている。笠ヶ瀧などの山岳霊場や石風呂跡、蛙子池、石炭坑など小豆島の歴史と文化を知る上でも重要な場所。



肥土山：279世帯
黒岩：77世帯
笠滝：30世帯
小馬越：52世帯



大鐸地区

うちの集落こんなところ！

母の実家があり、幼い頃から馴染みのある肥土山に移住しました。肥土山は観光地化もされていなくて、昔ながらの日本の景色が広がっているのが気に入っています。蛙子池の水面を彩る桜。青空と入道雲、田の緑のコントラスト。金色に実る稲穂。紅葉する木々。山に囲まれた田園地帯だからこそ味わえる四季折々の風景は、何度見てもため息が出るほど美しいんです。そんな景色を身近に感じながら暮らす事が出来るのは、本当に贅沢だと思います。

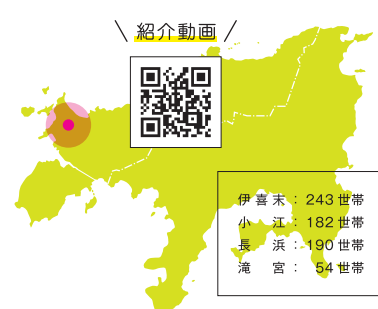


ふじわら なみ
藤原 奈美さん

し かい 四海

いぎすえ おえ ながはま たきのみや
(伊喜末・小江・長浜・滝宮)

小豆島の北西部に位置し、農業の伊喜末、漁業の小江、美しい海岸線の広がる長浜、オリーブ牛発祥の地である滝宮の4地区で構成されている。周囲には無人島も点在しており、島ならではの景色や暮らし、文化が凝縮された地区。



伊喜末：243世帯
小江：182世帯
長浜：190世帯
滝宮：54世帯



四海地区

うちの集落こんなところ！

坂道、細い路地、石積みの壁。私が生まれ育った小江は、尾道に似た個性的な立地でドラマ撮影でもよく使われます。土庄の中心まで車で約10分。毎日、穏やかな里山風景や目線と同じ高さに広がる海を眺めながら通勤しています。観光地ではないですが、穏やかで温かい雰囲気があり、暮らしやすさを実感します。そして「小豆島オリーブ牛」「小豆島島鱧」、小豆島を代表する食の二大ブランドを生んだ地域でもあり、私たちの誇りです。



くわの かほり
九富 かほりさん



肥土山農村歌舞伎舞台



NOTEL



岡田屋



伊喜末八幡神社



沖之島



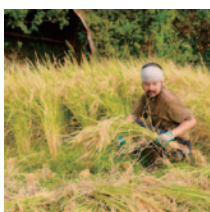
四海漁港



かきさこ わたる
柿迫 航さん

原風景の中で生きる

東京で生まれ育ち、10代の頃から農ある暮らしに憧れを抱いていました。田んぼ付きの今のお家に惹かれ移り住んだのは2年前。古くから米作りが行われてきた肥土山は、田畑と家々が交互に在り、人と自然とその営みが風景を紡いでいます。何百年も継承されてきたであろう風土や文化。この土地に根ざして暮らしてみると自分も風土を繋ぐ一人であることを実感します。昨年肥土山の仲間たちと創業した農村体験宿泊施設「NOTEL」。様々な人がこの地と繋がり、この景色に還元できる場になればと願っています。



かえるこいけ 蛙子池

小豆島最大の溜池。江戸時代、伝法川流域の農民は度々発生する干ばつに苦しめられていた。その状況を見かねた肥土山の庄屋太田典徳が、私財を投げ打ち、3年の月日と延べ7600人超の工事人夫を要しての大工事の末、天和三年(1683年)にこの池を完成させた。現在でも地域の農地を潤す貴重な水源である。この工事の完成を祝って行われたのが肥土山の農村歌舞伎である。



すどう
須藤 なみさん

日常の延長線上の自然を楽しむ

結婚を機に四海地区に移住しました。移住前は離島という環境に不安もありましたが、実際に暮らしてみると、スーパーや電気屋さんなど、生活に必要な施設が車で数分の場所にあり、むしろ地元よりも便利だと感じています。また、小豆島で子育てをする中で、地域の方が子どもの成長を温かく見守ってくれていることを感じています。地区の子ども会で同年代と気軽に関わることができたり、近所のおばあちゃんが庭で遊んでいる子どもたちに優しく声をかけてくれたり。子どもたちに、地域や人とのつながりを見せられることも、子育て環境としてありがたいです。



伊喜末八幡神社の太鼓祭り

島内の秋の風物詩として各地区で盛大に開催される太鼓祭り。伊喜末八幡神社で行われる太鼓祭りでは、四海・北浦地区の8地区の太鼓台が集まる。各地区の太鼓が一つとなって馬場を前後左右、回転しながら一糸乱れず行進する土俵舞いや、それぞれの地区の太鼓台を噛み合わせて、一丸となって担ぎ上げる競り合いなど、他の地区にはない独自のやり方で祭りを行っている。

きたうら

北浦

おみ みめ やかたざき うまごえ
(小海・見目・屋形崎・馬越)

小海、見目、屋形崎、馬越の4集落で構成される。地区のほとんどが傾斜地で平地が少ないが、その分眺望がよく、特に屋形崎から望む夕陽は島内でも屈指の美しさ。良質の花こう岩が取れることから、古くから石材の採掘が営まれていた。



見目集落

うちの集落こんなところ！

北浦地区の金融や文教施設が集まっていた見目。現在でもこども園やJA、郵便局があります。温暖な気候が影響しているのか、北浦地区の人はおとなしく、穏やかで人懐っこい気質の人が多く印象ですね。移住者もここ数年で少しずつ増えている印象です。見目の特徴と言えば「歩け歩け運動」。地域の人が集まって地域を歩くレクリエーションですが、移住された方にとっては地域の人と知り合う良いきっかけになっています。



ふじもと まさきのり
藤本 正則 さん



屋形崎の夕陽



屋形崎 夕陽の丘



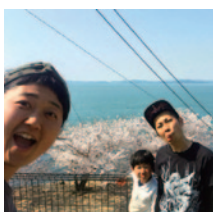
道の駅「大坂城残石記念公園」



たけみや たいじゆ
武宮 大樹 さん

導かれるように始まった屋形崎の生活

小豆島で初めに暮らしていた家は冬が寒く、別の場所を探していました。その際にたまたま立ち寄った屋形崎。集落を歩いていると気になる空き家を見つけ、道を歩いている人にその家について聞いたら何と、その人が所有者でした。そこからあっという間に話が進み、導かれるようにして始まった屋形崎での生活。屋形崎は高台にあるので、小豆島の中でも特に見晴らしが良い地区です。ここから眺める夕陽と、次第に赤く染まってゆく海の美しさは本当に格別。いつ見てもため息が出るほど綺麗なんですよ。家の窓から絶景を堪能できる今の生活をとても気に入っています。



道の駅

「大坂城残石記念公園」

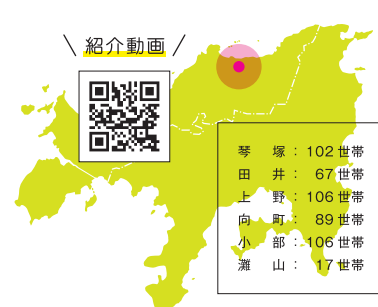
小海にある道の駅。休憩・喫茶・売店スペースはもちろんの事、大坂夏の陣で落城した大坂城を修築する際切り出され、使われることなく放置された石(通称、残念石)の展示も行われている。また、敷地の奥にある建物には小海地区で秋の太鼓祭りに使われた歴代の飾り太鼓も展示されており、小海地区の文化や歴史を感じることでできる施設となっている。

おおべ

大部

ことづか たい かみの むかいちょう こべ なだやま
(琴塚・田井・上野・向町・小部・灘山)

昔から、島の特産である石や醤油などの交易によって栄えた歴史のある地域。岡山方面に広がる海の透明度は抜群であり、田井や小部のキャンプ場など砂浜も美しい。景観の美しさや海の近さから、フリーランスの方にも人気が高い。



小部の海とこぼれ美島

うちの集落こんなところ！

生まれも育ちも大部で、住んでいた頃はこの環境を当たり前のようには思っていました。進学で島外に出たことで大部の良さに気付くことができました。都会は刺激も多く、欲しいものはすぐに手に入るけど、人の多さに圧倒されていつもどこか息苦しい。大部は人が少ない分自分のペースで動くことができるし、地域の人から気にかけてもらっていると感じる事も多いです。都会にいた頃よりも自然体で、心地よい日々を送っていると思いますね。



ふじた ともみ
藤田 智光 さん



大部公民館



小部キャンプ場



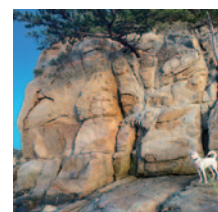
恵門之不動



もり あきこ
森 亜紀子 さん

石の文化と自然美が息づく大部での暮らし

古くから「石」を特産品としてきた大部地区には、石にまつわる歴史や文化が息づいています。山側には先人が巨石を切り出してきたダイナミックな石丁場が広がり、浜に行けば長い時間をかけて波が岩場に創り出した不思議な造形に出合えます。石工だったという地域の方に昔話を聞いたり、石切寿司というハレの日のご馳走を習ったり、夕暮れ時に浜でビールを飲んだり。大部での生活は飽きることがありません。市街地までの30分の通勤時間も、信号が一つしかないのでノンストレス。朝の澄んだ海、夕日を眺めながらのドライブに癒されています。



小部キャンプ場

綺麗な海と広い砂浜があることから昔はキャンプ場として賑わっていたが、時代の流れと共に利用者が減少。そんな状況を憂いた「シマアソビ」メンバーによって、2020年5月にリニューアルオープン。キャンプ、SUP、サウナ、出張菓子屋、焚火イベントなど、様々な活動を楽しめる新たなスポットとして島内外から多くの人が集まる場所に生まれ変わった。

豊島

檀山は、豊島のシンボル。ここから湧き出る豊富な水が作物を育んだり、海に流れた養分が漁場を作っていたところが「豊かな島」の由来ではないかという説もあります。



豊島美術館前の坂道と棚田は、メディアで取り上げられることも多く、「豊島らしい」風景です。棚田再生には多くの方の努力があり、今でも維持するために、尽力されている方々がいます。

小豆島と直島の間に位置する豊島は、面積 14.5km²、人口約 700 人が暮らしています。島の中央には檀山があり、そこからの豊かな水を利用した稲作、農業が古くから行われてきました。近代に入ってから、島内産業として酪農が栄えたこともあり「ミルクの島」と呼ばれ、戦後間もなく先進的な福祉施設ができたことから「福祉の島」としても知られてきました。1970 年代から始まった産業廃棄物の不法投棄は、全国的にも最大規模の産廃問題となりましたが、不法投棄された廃棄物の処理も進み、環境の再生を目指した取り組みが続いています。近年まで観光とは無縁だった豊島ですが、2010 年から開催された瀬戸内国際芸術祭を契機に、注目をされはじめました。豊島美術館をはじめとする現代アートの施設や作品もできたことで、国内外から多くの方が訪れ、今では年間約 26 万人の方が自然とアートが融合した“豊島”でのゆったりした時間を楽しみに来島しています。

豊島には大きく分けて、「家浦(いえうら)」「唐櫃(からと)」「甲生(こう)」の 3 つの集落があります。

生活情報

店舗

商店がありますが、都市部のようなスーパーマーケットは島内にはなく、小豆島や宇野へ買い出しに行く方も多いです。

医療

豊島は医師は常駐していませんが、家浦巡回診療所と唐櫃巡回診療所があり、医師が島外から週に 4 日間、月・火・木・金の各曜日に訪れることになっています。

金融機関

香川県農協 (家浦地区)
ゆうちょ銀行 (家浦地区)

港・フェリー

家浦港と唐櫃港からは、小豆島～豊島～宇野航路の他、高松への定期航路もあります。小豆島土庄港から唐櫃港まではフェリーで 35 分です。

島内移動手段

ほとんどの方は車やバイクで移動していますが、島内にはコミュニティバスもあり、車等を運転しない方はバスを利用しています。

学校・保育施設

家浦地区に小学校・中学校の一体型併設校があります。保育施設は、私立の保育所が 1 施設あります。

暮らしのポイント

point

1

「豊かな島」のナチュラルライフ

湧き水に恵まれ、稲作などの農業が古くから盛んだった豊島。島内にスーパーマーケットがないこともあり、島の人の多くは自分の食べる野菜を自分で育てています。「豊島農民福音学校」のような循環農法を実践するための学校が島内にあった事からも分かるように、自然に寄り添った暮らしが出来るのが豊島の魅力です。



point

2

コンパクトな島ぐらし

小豆島ほど大きくなく、人口も小豆島の 30 分の 1 程度のコンパクトな島なので、地域を超えた島ぐるみでの人付き合いが可能です。おばあちゃんと山菜の採る場所を共有し合ったり、おじちゃんに力仕事をお願いしたり。コンパクトな島だからこそ、幅広い年代や職業の人と知り合いになれます。



point

3

日常の風景の美しさ

豊島美術館や瀬戸内国際芸術祭など、「アートの島」の印象も強い豊島ですが、そうした作品以上に魅力的なのが島の風景。海と山のコントラストや、沈む夕日を照り返す海面のきらめきなど、何年住んでいても改めて美しいと感じる景色がこの島にはあります。



しんや たかゆき
新屋 貴之 さん

島民の方々との交流が豊島暮らしの醍醐味

買い物は商店があるのでそこで買ったり、小豆島や宇野に行ったり、インターネットで購入したりと、住んでみると意外と不便ではないですね。小豆島と大きく違うのは医療と仕事ですね。島内には診療所が一つありますが、緊急はやっていません。企業も少ないので、自営しながら副業や制作活動する方が多いです。都市部と比べるとタフな環境ですが、自然のある環境で、島民の方々とも交流を深めながら楽しめる方には向いていると思いますよ！

いえうら

家浦

家浦港は船の便数も多く、周辺にレンタサイクルや飲食店、民泊もあるため、瀬戸内国際芸術祭の期間中は人口約 700 人の島と思えないほどの観光客で賑わっている。地区内には、保育所や小中学校のほか、駐在所、診療所等の主要施設がコンパクトにまとまっており、島内では利便性の高いエリアといえる。



家浦港



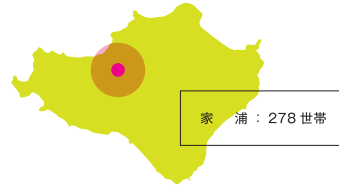
豊島郵便局



豊島小学校・中学校



あさだ
浅田 さん



家 浦：278 世帯

移住してくる方は、豊島のことをよく調べて来られているという気がします。島に勤め先がないので、フリーでやっている人が多いかな。そういう人が来るのは刺激になるし、良いことだと思います。地区の文化が続いていくように、移住の方とを繋いでいくのが私たちの使命だと思っています。ただ、ここで暮らすと決めたなら、定住する覚悟を持って来てほしい。長い付き合いだと思うからこそ、うまく付き合っていけるものです。

からと

唐櫃

唐櫃港を中心とした浜地区と、豊島美術館がある岡地区に分かれる。唐櫃港は、小豆島からの最寄港であり、物資や給食等、島間交流の重要な港。岡地区には島民が管理する棚田の景色が広がっていたり、後に小豆島オリーブ牛となる子牛を育てていたりとか昔からの暮らしが今も引き継がれている。



唐櫃港



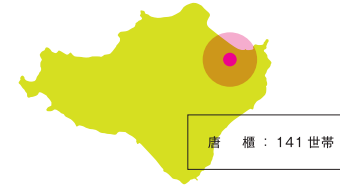
唐櫃の清水



唐櫃の棚田



みやま
美山 さん



唐 櫃：141 世帯

島内でも寒い地域で、降雪で車のチェーンが必要になることも。畑をするなら、猪の被害が大きいのでは必ず対策が必要です。これは皆が協力してやらないといけません。一箇所でも破られると、そこから他の畑も荒らされてしまいます。唐櫃の秋祭りは、観光客でも担ぐことができ、見学者を含めて全員でご飯を食べる、良い意味での「緩さ」があります。枯れたことのない「唐櫃の水」そして助け合いの精神は受け継いでいきたいですね。

こう

甲生

島への玄関口である家浦港・唐櫃港がある島の北側に対し、島の南側に位置する地区。かつては、材木問屋や廻船業で賑わっていたが、産業衰退・人口減少の波に飲まれ、現在は集落内に商店や公共施設がない。そのため、島外に出たり買い物をするためには車で 10 分ほどの家浦や唐櫃地区へ行っている。



甲生集落



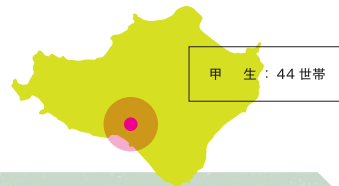
妙見宮



ドンドロ浜



うえまつ
植松 さん



甲 生：44 世帯

私が戻ってきた約30年前には150人ほどいたのが、今は60人ほど。半分は空き家になってしまいました。移住者はウェルカム！足掛けではなく定住してくれたら嬉しいですし、できることはしてあげたいと思っています。移住者は地区内に十数人いて、家に遊びに来てくれたりして交流はありますよ。地域、人を知って、つながる事が一番大事なので、率先して話しかけてもらいたいです。



やまざ
矢麦 さん

生まれ育った豊島で子育てがしたいと思って約9年前に戻ってきました。都市部で豊島の話をする、みんなに興味をもってもらえる。ここで暮らしていたことが、自分の武器になっていることに気がされました。不便なこともありますが、それを取り除くのではなく、不便を工夫し楽しみたいと思っています。移住の方には、自分の思いを最優先するのではなく、挨拶は当然ですが、地区活動への参加など自分から馴染もうとする気持ちは持ってもらいたいですね。



かわばた
川端 さん

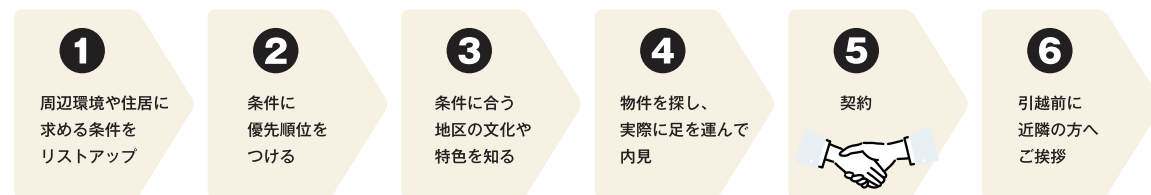
フリーでWEBサイトの制作等を行っています。家を見つけるまで4年かかりましたが、度々来島する中で知り合いも増えていったので、地域付き合いの不安はなかったですし、越してから積極的にコミュニケーションを取って繋がっていくことができました。初めの頃は、移住者同士集まって色々な情報を教えてもらったりもしましたね。今後はこの地区で、雇用を生むようなことができれば。甲生をどう盛り上げていくか、考えていきたいです。



あさだ
浅田 さん

越してくる前の不安はほとんどなかったです。ここで生活が営まれているのだから、行けばなんとかなると思って。豊島は「何もない」という人もいますが、私たちの草木染めの作品づくりに欠かせない、インプットできるアイデアや材料がたくさんあるんです。島には人口減少など課題はたくさんあると思いますが、私たちは後から住まわせてもらっている側。何かを変えよう、ではなく、島の人たちの気持ちを尊重しながら、私たちも楽しんでいきたいですね。

住まい探しのポイント



一軒家

空き家バンクで探す



土庄町
空き家バンク



小豆島町
空き家バンク



不動産業者一覧

¥ 【賃貸】40,000円～60,000円／月 【売買】100万円～1,000万円超



- 1 住んでみないと分からないことも多い。まずは賃貸からがオススメ！
- 2 絶対に譲れない条件は2～3個に絞っておくと、選択肢が広がる。

不動産業者で探す

集合住宅

不動産業者で探す



不動産業者一覧



インターネット上では、あまり情報が出ていないので、電話で問い合わせよう！

¥ 【賃貸】40,000円～70,000円／月

住まい探しの

コツ

- ・ 3ヶ月程度は余裕を持って行動しよう
- ・ 口約束はトラブルの元！不動産業者に仲介をお願いしよう
- ・ 所有者や不動産業者に顔を知ってもらおう
- ・ 内見のドタキャンは厳禁！誠実な姿勢に運は味方します

空き家チェックポイント

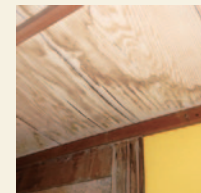
特に空き家であった期間が長い一軒家は、入居前の改修が必要になることも多いです。内見の際に状態をよく確認しておきましょう。

細かいチェックリストは
こちらからダウンロード



✓ 雨漏りのシミ

天井や壁にシミがないか、雨漏りの修繕歴も聞いておきましょう。



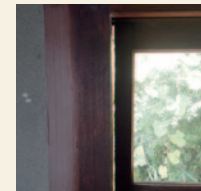
✓ 床の沈み

床や床下の木材が腐っていたり、シロアリの被害にあっている可能性も。



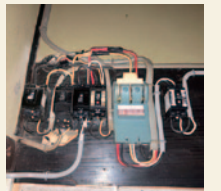
✓ 建具の傾き

スムーズに開け閉めできるか、柱との間に隙間はないか、床の傾きも要確認。



✓ 配電設備

古い家の場合、容量不足や劣化の可能性も。専門家に見てもらいましょう。



✓ 外壁の劣化

ヒビやコーキング、塗装の劣化があれば修繕、塗り替えの検討が必要です。



✓ 屋根の劣化、破損

塗装の劣化、瓦のズレがないか。ゆがみやうねりがないかをチェック。



知っておきたい
島の一軒家

汚水の処理方法にご注意

一部を除き下水道が敷設されていないため、し尿は各家庭に設置する浄化槽または汲み取りの方法で処理します。浄化槽を新たに設置するなら補助金が利用できる場合も。

給湯方法を確認しておこう

住まいを選ぶ際は、種類（灯油・ガス・電気）の確認とあわせて給湯器の残存耐用年数もチェックしておきましょう。ガスの場合、島内に都市ガスが通っていないため、プロパンガスを利用します。

よくあるご質問

よくあるご質問は、島ぐらしナビに随時追加中！



小豆島・豊島 島ぐらしナビ
□ <https://shimagurashi.jp>

地方暮らしがはじめての方は、「ご近所付き合い」や「自治会」がどのようなものかがイメージできないことでの不安もあると思います。でも大丈夫！今住んでいる場所でうまくやっているのであれば特に心配はいりません。
自然体でコミュニケーションを楽しめば、交流の輪がどんどん広がっていきますよ！

Q 自治会って入らないといけないのですか！？

A 各集落の自治組織として自治会があり、定期的な清掃活動や地区のお祭りなどの行事などを行っています。どの地区に入っても、基本的には自治会に加入し、地域の共益費ともいえる自治会費を支払う必要があります。自治会費は地区によって異なりますが、約5千円～1万円程度。そのほか、目的別に寄付等を求められることもあります。地域の情報共有の仕方でも地区によって様々なので、近隣の方や地区長さんに確認してみましょう。

Q 移住検討時に、どうやって地区の人と接点を持てばいいですか？

A 検討初期段階の方
「その地区の雰囲気を知る」ということが大事な段階です。
訪問できるようでしたら、地区内もしくは近隣のカフェ等に訪れてみたり、エリアを散策しながら出会った方と雑談をしてみるといった、ハードルが低いことから繋がっていくというのがいいと思います。
絞り込みが進んでいる方
行政の移住相談窓口やNPO法人トティエに相談していただければ、その地区にお住まいの先輩移住者などを紹介できる場合もあります。SNSを活用すると移住前でも島民と繋がれるかも！

Q 引っ越しが決まったら、何をすればいいですか？

A 「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、まずは近隣へのご挨拶をしましょう。その際には、自己紹介に加えて、いつから住むのか、家族構成や仕事、改修工事をするようであれば、その工期等も伝えておきましょう。併せて地区長さんも紹介してもらい、地区行事や自治会費、ゴミ捨て場や当番等についても事前に確認しておいた方が、引越した後スムーズに暮らし始めることができます。また、ガスや水道等インフラ契約に関すること、転入の際の粗大ごみの捨て方等は、近隣の方よりも行政窓口や現所有者、仲介業者への確認が適しています。

Q その地区に馴染むにはどうしたらいいですか？

A まずは挨拶を通じて、近隣のコミュニケーションを図り、それを徐々に広げていきましょう。地区によっては地区消防団員や秋祭り等への参加を求められる場合もありますが、地域安全や文化継承でもありますので、積極的な参加をしていくと地域で受け入れられやすいです。いずれにしても、新しく入った側から積極的なコミュニケーションを取ることが、地域社会に馴染んでいくポイントです。

＼ 楽しい暮らしを続けていくための /

地域で暮らす8ヶ条

1 まずは挨拶をしよう

地方では、顔と名前と“どういう人か”を知ることが安心感となり、それが地域の安全にも繋がってきます。もともと住んでいる人からしたら、移り住んだ方はあなたは知らない人。初めて会う人がいたら、こちらから積極的に挨拶をしましょう！笑顔も忘れずに！！

2 四季を感じよう

地方暮らしでは、季節ごとに色づく景色、その時々野菜を食したり、太陽・月・星の動きや潮の満ち引きなど、自然との共存が生活に彩りを与えてくれます。四季折々の楽しみを見つけ、その土地・風土に心と体を馴染ませていくことは、日々を豊かにする秘訣です。

3 地域との関わりをつくり、話せる友人を増やしていこう

自分が住む地区・集落の行事や、そのエリアを越えた島の行事や活動をしている人たち等、接点は多くあります。最初の勇気は要りますが、地域の一員となって活動に参加をすることは得るものがたくさんあります。また、同じ年代や趣味を持った方と知り合う可能性も広がりますよ！

4 職場は島内のネットワークを広げる最初のキッカケ

地方での仕事・職場は、労働の対価として賃金を得ることの他に、ネットワークを広げる軸足という側面も強くあります。職場をきっかけに外の交流も広がっていきましょう。また、企業・団体に属さない方は人との接点が狭くなってしまうので、意識的に関係を広げていくことも必要です。

5 いろんな価値観を認め合おう

違った価値観・やり方であっても、自分の考えを一方的に押し付けず、現状をお互いが認め合い前を向くために手を取り合う「協調性」が地域にとっては大切です。暮らし中で地域に馴染み、変わっていくことも面白いものです。頭のしなやかさを忘れず、交流の刺激を楽しみましょう！

6 小さなチャレンジをして楽しもう

新しい環境で暮らししてみると、やりたいことが少しずつ出てきます。地方暮らしは、日常の延長線上のチャレンジがしやすく、それが暮らしを楽しむことにも繋がります。移住前のプランに余白を持たせ、暮らしを楽しむ中で生まれる「自分らしく何かをしたい」という心の種火を育てていくことも大切です。

7 “何かをしなきゃいけない”ワケじゃない

メディアや体験談を読みすぎると「何かをしなきゃ・・・」と思うかもしれませんが、気張らないでOK！友人や、地元の方と仲良く笑える「しなやかな身の丈暮らし」が一番大切。島ぐらしを始めてからの「自分が自然体でいられる」日常に目を向けましょう。

8 地方移住＝ゴールではありません

地方移住は、環境も価値観も変わっていく転機にはなるとはありますが、ここがゴールではありません。移住はあくまで理想の人生やライフスタイルに近づく“手段”。まずは自分や一番近くで支えてくれている人たちを大切に。そういった穏やかな心が、地域のいろんな人と交流を深めていく源です！